説教ワンポイント

何が望みか

マタイ二〇・二〇、二一

受難節ももうすぐ終わり、再来週は復活祭を迎えます。「復活」という日本語は難しく馴染みがありませんが、原語は「再び立ち上がる」という簡単な表現です。イエスは生前、自らの十字架と復活について三度、予告されました。

「再び立ち上がる」復活を「立派な地位につく」ことと思い込んだのでしょうか、イエスの弟子であるヤコブとヨハネの母がイエスに何か取り入ろうと近づいて来ました。「あなたが「立派な地位についた」とき自分の二人の息子もその右大臣、左大臣のような立派な地位につけてほしい。そう思ったのです。だが、彼女が願いを口に出す前にイエスの方から尋ねました。

「何が望みか？」

単なる質問とは思えません。力あるイエスですから、彼女の願いなどすでに分かっていたことでしょう。それでも問うのは心の奥に彼女自身も気づかぬ本当の願いが潜むと信じたから。

私たちはどう祈るべきかを知りませんが、霊自らが言葉に表せないうめきをもって執り成してくださる」（ロマ八・二六）

私たちは毎日祈りながら、振り返ると自分勝手なお願いばかりしていることに気づき、申し訳なく思います。ただ、主イエスはそんな私を頭ごなしに叱るのではなく、「何が望みか」と問いかけます。あなたの心は本当は何を望むのか。

私たちは、願いを叶えたいから祈ると思っていますが、実際は、願うべきことは何であるか、それを知ためにに今日も祈るのかもしれません。

（二〇一七年四月二日礼拝より、津田記す）